カラリョフ多久田バレエアカデミー

本場のバレエを神戸で！ワガノワメソッドで徹底指導

日本にいながら本場ロシアのバレエ・レッスンを受けることができる！

神戸・元町に多久田さやかさんとカラリョフ・アレクサンドルさんが 24 年 11 月に開設した「カラリョフ多久田バレエアカデミー」は、ロシアの国家バレエ教育学のディプロム（卒業証明）を習得したバレエマスターが、ワガノワメソッドの本格レッスンを指導するバレエ学校です。

多久田さやかさんは鳥取県出身。３歳でバレエを始め、14 歳（中学３年生）でモスクワのロシア国立ボリショイバレエ学校に留学して、卒業後はロシアでバレリーナとして舞台に立ち、2010 年にペルミ国際バレエ・コンクールで 1 位を獲得するなど活躍してきました。

パートナーであるカラリョフ・アレクサンドルさんは、同バレエ学校でさやかさんの１年先輩。卒業後はバレエダンサーとして働くかたわら、ボリショイバレエ学校の大学・大学院へと進み、ロシア連邦国家バレエマスターの資格を取得しました。指導した生徒を次々とバレエ・コンクールで上位入賞させ、多くの優秀なダンサーをロシアのバレエ団に送り出しています。

カラリョフ多久田バレエアカデミーでは、現在、小中学生などを対象に、元町教室で週３回（火金日）、三宮教室で週１回（水）のレッスンを行っています。目指すのは、世界基準の指導で「海外で活躍できるダンサー」を育てること。アレクサンドルさんの大学院修士号まで学んだ深い知識と豊富な指導経験、さやかさんのロシアでの生きた舞台経験とバレリーナとしての知識が、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す理想的な指導スタイルを作り出しています。

カラリョフ多久田バレエアカデミー↓↓
https://www.korolevtakudaimperialballetart.com/

前置きが長くなりましたが、以下、多久田さやかさんに、14 歳でモスクワへバレエ留学した時から卒業後、ロシアでバレリーナとして活躍し、2022 年に帰国するまでのお話をうかがいました。

写真；ロシアで大活躍した多久田さやかさん（上）、
カラリョフ・アレクサンドルさん（中）、二人のディプロム（卒業証書）

«インタビュー» 多久田さやかさん

14歳でバレエ留学、18年間ロシアのバレエ団で活躍

大事にしたい「美しいと感じる心」

―― さやかさんは、鳥取でお生まれになって、3 歳でバレエを始められた。大阪日ロ協会のバレエ講習会(ロシア短期研修)に参加されたのはいつ頃ですか？

多久田　中学２年生の３月です。その前にも小学校５年から毎年、大阪であった講習会に参加しました。大阪日ロ協会の招へいで、ワガノワ・バレエ学校の先生が来日して、大阪や広島など各地を回ってバレエ講習会が開かれていたのです。私はずっとロシアでバレエを勉強したいと思っていて、中学校２年生の春休みにロシア・バレエ短期研修に連れて行っていただきました。

―― サンクトペテルブルグのワガノワ・バレエ学校ですか？

多久田　その時は、モスクワのボリショイとワガノワの両方でした。大阪日ロ協会がサンクトペテルブルグの「日本の春」というイベントに交流団を送っていたので、その交流イベントにも参加しました。2001 年の３月です。

私が参加したのはモスクワ３日間・サンクトペテルブルグ 1 週間の短期研修で、大部分の参加者はそれで帰国したのですが、そのあとエカテリンブルグの交流イベントに参加する別のグループと合流して、エカテリンブルグで３日間だけでしたがホームステイを体験しました。

私と同い年の日本語を勉強している女の子の家で、本当に日本語はほんのちょっとだけで…、私ももちろんロシア語がしゃべれなかったので、お母さんとおばあちゃんとその子と、みんなで辞書を片手に、「今日のご飯はお肉にするか、お魚にするか」とか、冷蔵庫に入っている瓶詰の野菜を出して「どれ食べる？」とか、会話しました。言葉が通じなくても身振り手振りで伝えたり、お魚とお肉、別に全然違うものを食べてるわけでもないし、何とかなるもんだなということを子どもながらに感じて、とてもよかったです。

―― ロシアへのバレエ留学の夢が膨れあがったわけですね。

多久田　はい、もうロシアに行きたくて仕方がありません。でも、ワガノワ・バレエ学校はまだ規定年齢に達していなくて、先生は「是非、いらっしゃい」と言ってくださったのですが、ワガノワは寮ではなくて一人暮らしで自炊なので、当時は高校１年の９月からでないと受け入れないという決まりがあったのです。あと１年半待たないといけない。けど、すぐにでも行きたい。ということで、モスクワのボリショイバレエ学校に中学３年の９月から留学しました。

３月の短期研修から帰って９月に留学するまでの間、ロシア語を勉強するために鳥取と大阪を何回も往復しました。バレエ講習の一環として大阪日ロ協会が開いていたロシア語講座です。ロシア語テープを聴いて勉強したり、ロシア領事館にビザを取りに行ったりして、2001 年 9 月からボリショイバレエ学校に留学したのです。

―― 中学校 3 年生、まだ 14 歳ですか。すごいですね、その若さで飛び込んでいくというのは。

多久田　今はもう小学生から留学する人もいるので、珍しいことではないかもしれないですが、当時は高校生でも「高校を卒業してから」というような空気がありました。でも、せっかくいただいたチャンスなので、もう必死でした。

ただ、手続きは大変でした。ボリショイバレエ学校に、日本の中学校の「卒業見込証明書」を提出しないといけないのですが、私は鳥取の公立中学校だったので、校長先生が「中学校で卒業見込みなんて書類を書いたことがない」と頭を抱えていました。私は、運よくというか、小さい時からバレエをやって、小学校の時に教育長表彰をいただいたりして、学校も教育委員会もすごく応援してくださっていたので、前代未聞のことですけれども、書類を出していただいて留学の道が開けたのです。

―― すごいエネルギーですね。それだけ熱意をもっていたから、むこうでも頑張れたんですね。

多久田　今振り返ると、「バレエが大好き！」「バレリーナになりたい！」という気持ちしか本当になくて、その気持ちだけで突き進んだという感じです。それは、よい意味では「夢を持つ」ということだけど、別の見方をすれば「幼い心」というか、世間知らずだったのだろうと思います。ただ、すごく感謝しているのは、それを周りのたくさんの方々が大事にして応援してくださったことです。そのおかげで、今日の私があるのだと思います。

ボリショイに留学した時、私は 14 歳でした。最初は４年

生とか、よくても 5 年生に編入されるだろうと言われていたのですが、当時の校長マリーナ・レオノワ先生が気に入ってくださって、私はすぐに 6 年生のクラスに入れていただいたのです。それも私の人生の中ですごくラッキーなことで、同じクラスには世界的バレリーナになったナタリア・オシポワがいました。

―― 結局、何年間留学したのですか。卒業後はロシアのバレエ団に入られたんですよね？

多久田　3 年間です。6 年生、7 年生、8 年生と 3 年間のバレエ留学でした。夫のアレクサンドルは、私の 1 学年上にいました。

2004 年 6 月にボリショイバレエ学校を卒業して、ロシアのバレエ団に入り、一人暮らしを始めました。

当時はまだ「バレエはロシアのもの。誇り高き国の文化芸術であって、アジア系の人間が舞台に立つのは許せない」といった空気があって、バレエ団に入るのもとても難しかったです。技術の上手下手ではなくて、もう国籍や顔つきだけでハネられるということがありました。ビザの問題もあります。外国人を雇用するのはやはりお金がかかりますし、いろいろ大変だったのですが、アレクサンドルが所属する「バレエ・モスクワ」というバレエ団に入団することができました。

―― 2004 年に卒業して、「バレエ・モスクワ」に入団、バレリーナとして本場ロシアの舞台で活躍された。ペルミの国際バレエ・コンクールで優勝したのはいつのことですか？

多久田　2010 年にペルミ国際バレエ・コンクールで第一位をいただきました。国際コンクールで優勝することを目標にロシアに留学したので、受賞はとても嬉しかったです。

受賞すると、そこはやっぱりバレエの国ロシア、たくさんのバレエ団からオファーが来ました。その後、私が夢に描いていたバレリーナ人生が始まりました。

小さいころから大好きで、本当にロシアに行く目標だったファルフ・ルジマトフと共演しました。現ワガノワ・バレエ学校校長のニコライ・ティスカリーゼ、ボリショイ・バレエ団の岩田守弘先生、アンドレイ・バターロフといった名だたる方々と一緒に踊ることができました。モスクワ、ローマ、ロンドン、ソウルと世界中を飛び回りました。心の底から「私の夢はかなった！」と思った瞬間でした。それが私の人生の誇りです。

―― でも、それまでの努力、ロシアでのご苦労も大変なものだったのではないですか？

多久田　実は、バレエ学校を卒業した翌年（2005 年）にモスクワのコンクールを受けたのです。私はまだ 18 歳でしたがシニアの部でした。私はコンクールといえば一生懸命練習して必死で踊るというイメージでいたのですが、一緒に出ているのはみんなバレエ団で主役をとって、毎日全幕踊っているような人たちばかりです。コンクールで踊るのは、全幕バレエのグランパドゥドゥとか、ソロの部分とか、ほんのちょっとだけなので、練習もしていない。パドゥドゥを踊るなんて朝めし前という感じで、全然緊張してないのです。それを目の当たりにして、「全然レベルが違うな」と実感しました。

「私はまだまだこのレベルに達していない。バレエ団で主役を踊れるようにならないとコンクールに出るものではない」と、その時に強く思ったのです。だから「とにかくバレエ団で主役を踊れるようになろう」と、その時から次のコンクールまですごくバレエ団に専念しました。バレエ学校よりもはるかにたくさん踊っていて、本当にそのころの記憶があんまりなくて、リハーサルを含め朝の 10 時から夜の 9 時までずっと踊りっぱなしみたいな生活でした。

そういう生活のままペルミの国際コンクールの準備をしたので、バレエ団のレッスンが終って、夜 9 時からコンクールのレッスン。本当に夜寝る間もなく練習して、バレエ漬けで過ごしました。アレクサンドルがいたから、そこまでできたのです。当時はもちろん彼もバレエ団で働いていたのですが、家で食事を作ってくれたり、疲れて帰ってきたら励ましてくれたり…。「さやか、痩せすぎだよ、ご飯をしっかり食べなさい」って。彼がいなかったら、今の私はいないと思います。

コンクールの間も、洗濯や食事などの世話をしてくれたり、衣装を直してくれたり、私が踊ることに専念できるようにしてくれました。

―― アレクサンドルさんとの出会い、結婚について、もう少し教えてください。

多久田　彼と仲良くなったのはバレエ団に入ってからで、結婚したのは 27 歳。10 年つきあって結婚しました。バレエ団では彼も一緒に踊っていました。

私がコンクールの準備をしている時に、アレクサンドルはいつも音楽係をしてくれていました。ある時、先生が「私がいない時はあなたがリハーサルコーチをやってね」と言ったのです。「先生、僕は音楽係をやってただけで、コーチなんてできません」、「いや、あなたは私が指導しているときに注意事項を全部聞いてるから、リハーサルなんか全然難しくないわ」。それで実際にコーチをやってみたら、先生が「あなたには教師としての才能がある。すぐ大学に行きなさい」。ロシアでは、国家試験のディプロム（卒業証明）がないと教師として教えることができません。それで彼はボリショイバレエ学校の大学に入った。大学に行って指導者の立場になるとメキメキと才能を発揮するようになりました。

彼は大学卒業と同時に、クラスノヤルスクのバレエ学校に教師として招待されました。そのころには私たちは結婚していたので、二人でモスクワからクラスノヤルスクに移ったのです。私はクラスノヤルスクの劇場で舞台に立ち、彼はバレエ学校で教えて、仕事をしながらさらに大学院にも行きました。

―― ロシアで充実したバレエ生活を送っていて、日本に帰って来

られたいきさつは、どうしてですか？

多久田　新型コロナの最中、2021 年 3 月に娘のアンナを出産しました。生まれる 1 週間ほど前に、鳥取の先生から翌年 2 月末の公演のオファーをいただいて、1 年後に 3 人で一時帰国したのです。

帰国したのは 22 年 1 月 22 日です。まだコロナの規制が厳しくて、アレクサンドルの日本ビザ取得、出発前の PCR 検査、帰国直後の強制隔離と、本当に大変でした。ようやく鳥取へ帰って、残りの隔離期間を実家で過ごして、公演準備の練習を再開している間に、ウクライナ戦争が始まってしまいました。

―― 22 年 1 月 22 日に帰ってこられて、ウクライナ侵攻は 22 年 2 月 24 日ですもんね。

多久田　2 月 27 日が公演本番で、それが終って、3 月 8 日にロシアへ帰る予定だったのです。でも、そのころにはロシア行きの飛行機が飛ばなくなっていました。予約していた東京ーウラジオストクのアエロフロート便はフライトキャンセルで、3 月の終わりまで延期を繰り返している間に完全に欠航になってしまいました。厳しいロシア制裁が実施されたこともありました。娘はまだ 1 歳になったばかりで、ロシアでの生活に不安があり、それでそのまま日本に残ることになったわけです。

私もロシアで 20 年暮らし、家もあったし、車もあったし、バレエ団の仕事もあったし、娘もむこうで出産して、もう日本に帰ることはないと思っていたのですが、結局、日本で生活することになってしまいました。

―― 神戸でバレエ・スタジオを開設されたのは？

多久田　ずっと鳥取の実家にいたのですが、ご縁があって、昨年 11 月 1 日に神戸でバレエ・スタジオを開設することができました。

カラリョフ多久田バレエアカデミーでは、元町で週 3 回、三宮で週 1 回、全部で週 4 回のレッスンをやっています。アレクサンドルはロシアのバレエ学校で教えていましたので、日本にいながらロシアに留学するのと同じレッスンが受けられます。世界が認めるロシア・バレエ。本物の授業です。すごく素晴らしいロシア・メソッドですので、皆さんと楽しくバレエを学んでいけたらと思います。私がロシアで学んだことや経験したことを、アレクサンドルと一緒に皆さんに伝えて、たくさんのバレリーナを育てていきたいと思っています。

練習も大事ですけども、私が大事にしていることは、「美しいと感じる心」です。人間としてもそうですし、とくに舞台芸術であるバレエをやるのに、美しいものを美しいと感じる心は非常に大事です。きれいな心、美しいと感じる心を持たないで、踊るのは現実にはとても難しい。音楽を聴くのも、バレエを踊るのも、子供たちの教育にとても大事な役割を果たすと思っています。

（2025 年 8 月 1 日／聞き手；伏田昌義）

日ロ友好愛知の会　講演会（4 月 5 日）

「ロシア民謡」はなぜ、日本人の心に響くのか

安原　雅之（愛知県立芸術大学 副学長）

「ロシア民謡はなぜ日本人の心に響くのか」というお題を頂戴し、いろいろ考えてみました。この問いに、明確な一つの答があるわけではありません。というのも、ロシア民謡は非常に多岐にわたっており、さまざまな種類の楽曲があるので、全部ひっくるめて一つの答えがあるわけではないのです。でも、何か共通するものはありそうだな、と考えながら準備してきました。

ロシア音楽・ソヴィエト音楽の話をするときに、最近特に意識することは自分の年齢です。戦争やソ連崩壊など、歴史的な大事件は、実際どのように経験しているか、あるいは経験していないか、人によって経験値がかなり異なります。私が世代ギャップを感じるのは大学でソ連の話をする時です。ショスタコーヴィチ、プロコフィエフの曲を学生たちはよく知っているのですが、ソ連の話になると「歴史で習いました」とか「昔はそういう国だったらしいですね」といった反応が返ってきます。私は 1961 年生まれです。物心ついた時はソ連という国がありました。私が初めての海外旅行でソ連に行ったのは、ゴルバチョフが登場する前の 1983 年でした。シベリア鉄道に乗ってロシアを横断しました。その後、モスクワに 2 回留学しました。1 回目は 1991 年で、アメリカからの留学でした。モスクワ滞在中にソ連が崩壊して（91 年 12 月）、その半年後にアメリカに戻りました。34 年前のソ連崩壊は、私にとっては鮮明な記憶ですが、その話を学生にすると「先生、それ私が生まれる前です」と言われます。経験値は人によって、年齢によって大きく異なるわけです。

前置きが長くなってしまいました。本題に入りたいと思います。

民謡とは？

まず、民謡とは何でしょうか？

辞書「大辞林」によると、「各地の庶民の日常生活の中から自然に生まれて長い間伝承され、その地方の人々の生活感情を表している素朴な歌謡。仕事唄、祝い唄、酒盛り唄、盆踊り唄など」と説明されています。

確かにその通りだと思うのですが、さて、最近耳に入ってくる民謡がどういうものでしょうか？ 日常生活の中で普通に歌われている仕事唄とか祝い唄というものを、今私たちが

聞くことがあるかというと、多分ありません。これは日本でもロシア・ソ連でも当てはまることでしょう。民謡は自然に生まれて伝承されたものではありますが、時代とともに、また歌い手によって、少しずつ形を変えて別なものになっていくのは避けられないと思います。

「採譜」で記録された民謡とその変容

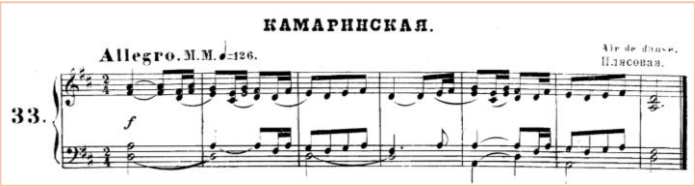
古くから人々に伝承されてきた民謡は、「採譜」によって記録されます。採譜というのは、楽譜に書き留める作業のことです。昆虫採集だったら虫かごを持って網で虫を取りますが、音楽の場合は実際に歌われたものを五線譜に書き留めて記録します。採譜をして楽譜になると、その歌は、自立した音楽作品になると言えるでしょう。

ロシアの民謡集から

ロシアでは、伝承される民謡を採譜して楽譜にまとめる作業が、18 世紀末ごろから一般的に行われるようになり、19 世紀に入るとたくさんの民謡集（譜例集）が作られました。本日、150 曲のロシア民謡が収録された、ビルヴォアという人の譜例集を持参しました。その中から、実際にいくつかの民謡の旋律を聞いていただこうと思います。

「カマリンスカヤ」は、比較的知られている民謡の旋律です。七小節しかありませんが、旋律がピアノ用にまとめられて楽譜になっています。～（曲）

あっという間に終わりました (笑)。カマリンスカヤの旋律は、これは最初からこの楽譜があったわけではなく、誰かがが歌っているのを採譜してピアノにアレンジしたらこうなったというものです。



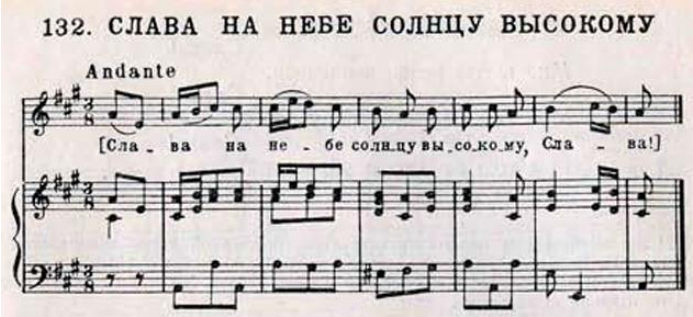
次は、チャイコフスキーのピアノ曲で、「子供のための曲集」の中の一つを聞いていただきます。これもカマリンスカヤです。～（曲）

ビルヴォアの楽譜では七小節だけでしたが、一旦採譜されると新たなフェーズに入って、展開・発展の可能性が生まれます。

19 世紀にはロシアに限らずいろんな国で民謡の採譜が同時多発的に行われましたが、ロシアではそれらが「ロシア民謡」として伝承されてきました。各国の音楽的な要素がそれぞれの音楽に読み込まれていきます。そのようにして、国民主義というものが台頭してきました。ロシアではそれが今日「ロシア民謡」と言われるものになっていったわけです。

民謡の自立、展開・発展

次に紹介するのは、リヴォフとブラーチという人が出版したロシア民謡集です。ここには 200 曲以上入っているのですが、その中で一曲だけ、「スラヴァ」という曲を聞いていただきます。音源がないので、メロディーだけを鍵盤ハーモニカで弾いてみます。～（曲）



どこかで聞いたことがあるような曲だと思いませんか？実際にどこかで聞いている可能性は充分にあります。一旦楽譜になるとそれが自立して、別な国や地域へ行く可能性も当然あるわけですが、あのベートーヴェンが、この曲の入った譜例集を持っていました。

ベートーヴェンのパトロンの一人で、ラズモフスキーというウィーン駐在ロシア大使がいます。彼からの委嘱でベートーヴェンは弦楽四重奏曲を書いているのですけれども、作品 11 の第２楽章に、ロシア大使への敬意を表してこのロシア民謡の旋律を入れ込んでいます。～（曲）

ベートーヴェン以外でも「スラヴァ」の旋律は使われており、大きな作品としてはムソルグスキーのオペラ《ボリス・ゴドゥノフ》の中の戴冠式のくだりでこの旋律が出てきます。～（曲）

ラフマニノフのピアノの連弾曲にも「スラヴァ」の旋律がそのままストレートに出てきます。～（曲）。堂々とした感じの旋律が、ラフマニノフらしい壮大なピアノの音でまとめられた曲になっています。

このように民謡集に組み込まれている旋律がいろんな作品に提供されているのを知ると、ロシア音楽を聴く楽しみが増えます。

第二次大戦後の日本における「ロシア民謡」

後半は、日本で一般に「ロシア民謡」として親しまれてい

る曲の話です。ここで「ロシア民謡」とカッコで括ったのには、それなりの意味があります。

第二次世界大戦後の日本で、「ロシア民謡」というカテゴリーの曲がたくさん紹介され、歌われるようになりました。どうしてそうなったのでしょうか？ まず一つは、第二世界大戦後シベリア抑留から帰ってきた人たちが「ロシア民謡」としていろんな曲を紹介しました。それと連動して起こった「うたごえ運動」の中で、「ロシア民謡」は非常に人気があって盛んに歌われました。二つ目に、これも連動していたと思いますが、ダークダックス、デュークエイセス、ボニージャックスといった人気男性ボーカル・グループが、「ロシア民謡」をレパートリーにしていたということがあります。

何人かキーパーソンになる人がいるのですが、その中で最も重要と思われる一人は、井上頼豊さんです。井上頼豊さんは戦前からオーケストラのメンバーとして活躍したチェリストで、プロコフィエフやショスタコーヴィチの伝記を書いた人でもあります。戦後、ソ連に数年間抑留され、1948 年に帰国してからも演奏活動を続けました。ソ連での経験は、音楽家としてとても重要な時期だったこともあって、影響が大きかったようです。ロシア民謡集を何冊も出版し、その中に「ロシア民謡」として歌われるようになった曲がたくさん入っています。

作詞・作曲された「ロシア民謡」も

ただし、この時代に「ロシア民謡」として紹介されたものの多くは、最初に確認した定義のような「日常生活の中で自然発生的に生まれた歌」ではなくて、作詞者がいて、作曲者もいるもので、歌がロシア風だということで「ロシア民謡」のカテゴリーに入れられて広まったものです。曲によっては「民謡」と言っていいのかどうかというのもあるし、最初から完全に作品として作られたものもあります。今日、ロシア民謡というときに私たちが思い浮かべるのは、ほとんどが戦後に紹介されたこの「ロシア民謡」です。

いろいろ調べてみて、ちょっとびっくりしたのは、NHK の紅白歌合戦で「ロシア民謡」が 5 曲も歌われていたということです。

1958 年第 9 回　ダークダックス「ともしび」
1960 年第 11 回　ダークダックス「すずらん」
　　ボニージャックス「一週間」
1963 年第 13 回　ダークダックス「カリンカ」
1967 年第 18 回　アイ・ジョージ「カチューシャ」

私は、ダークダックスやボニージャックスは、NHK の「みんなの歌」にも出ていたので名前は知っていたし、「1 週間」はこの人たちの歌で聞いた記憶もあるのですが、紅白歌合戦は知りませんでした。ダークダックスは「ともしび」でデビューして、これが一躍ヒットして有名になったようです。～（曲）

「ともしび」の作詞者はイサコフスキーですが、作曲者はわかっていません。「一週間」は、19 世紀に成立した歌だと考えられますが、作詞者、作曲者は不明です。「カチューシャ」は、作詞＝イサコフスキー、作曲＝ブランテルです。「カリンカ」は、作詞・作曲＝ラリオーノフ。「すずらん」は、1959 年にソ連で作られた歌です（作詞＝ファジェーエヴァ、作曲＝フェルツマン）。

19 世紀から今日までロシアで書かれた歌の中には、「民謡」というよりは「チャストゥーシュカ」（速歌／はやうた）というジャンルもあります。19 世紀末から都市部で大流行した遊び歌のようなもので、その名のとおり、速いテンポでアコーディオンやバラライカの伴奏に乗せて歌われ、軽快な踊りを伴うことが多い即興の歌曲です。こういったものも、異国に伝わると「民謡」と認識され、紹介されたということがあります。

「ロシア民謡はなぜ日本人の心に響くのか」

こういった「ロシア民謡」と呼ばれるものの音楽的な特徴があるとしたら、全部当てはまるわけではありませんが、ちょっと暗い「短調の曲」が多くて、「リズムは軽快」というところでしょうか。短調から長調に突然変わってまた突然短調にもどる「突然の変化」も「ロシア民謡」の特徴です。

何が日本人の心に訴えるのか。「これです！」とはっきり言えないけれども、短調のしっとりした感じで、だけどもリズムは軽快なので、独特な疾走感があるようなところに、多くの日本人が反応しているような気がします。

最後にもう一曲、共有します。「赤いサラファン」（作曲A・ワルラーモフ、編曲ヴィソツキー）のギター・バージョンで演奏されたものです。～（曲）

「赤いサラファン」は紅白では歌われてないですが、「みんなの歌」には取り上げられており、研ナオコさんがいい感じで歌っていました。

＊　　＊　　＊

まとめておくと、井上頼豊さんのような人たちが戦後、ソ連から日本に帰ってきたときに、「ロシア民謡」をたくさん紹介しています。それが「うたごえ運動」などを通じて日本社会に浸透して、実際に歌われるようになっていった。さらに、ボニージャックスとかダークダックスといった人気グループがレコードに吹き込んでヒットして、紅白歌合戦でも歌われた。1950 年代から 1970 年代にかけての日本におけるロシア民謡というのは、「うたごえ運動」をはじめ、日ソの文化交流や、いろんな社会運動とも連動して、日本社会に受け入れられていったのだと思います。ロシア民謡を通して、当時の社会の大きな流れが垣間見られるような気がします。（了）

※本稿は、25 年 4 月 5 日の安原雅之先生の講演内容を、事務局で要約して文章化したものです。

〔へだたれば、つなぐ〕（中編）

「へだ号Tシャツ」を知る人は本当に戸田にいるのか？

岡本 健裕（JIC 大阪）

戸田の砂嘴

＜前回までのあらすじ＞

"マニアフェスタ"というマニアックなフェスタで出会った「ヘダ号Tシャツ」に一目惚れした筆者（岡本）は、必ずこれを着て戸田（へだ）へ行くことを誓った。しかし直後、世界は新型コロナの混乱に襲われ、約束は果たされないままになってしまう。5 年近い月日が過ぎた 2024 年 11 月、ようやく岡本はヘダ号Tシャツを着て戸田に着いたのだった。ところが、出会う人に片っ端から見せてもヘダ号Tシャツを知っている人がいない。ラーメン店「いなだ苑」の店主とおかみさんはそろって首をかしげ、重要文化財「松城家住宅」を案内してくれた山口展徳さんも知らないという。もしかして、戸田では誰もヘダ号Tシャツを知らないのか…？

＜本編＞

さて、私はこれから、山口さんの車に乗せてもらって、戸田造船郷土資料博物館へ行くところです。ふだん山口さんが本業の大工の仕事用に一人で使っていると思しき軽トラックの助手席に、しばし場所をお借りして、松城家住宅を出発です。

山口さんはまず、戸田の地形を一望する高台の「出逢い岬」へと車を走らせてくれました。戸田の街は伊豆半島の西海岸に開いた小さな湾に面しています。その湾口には見事な鉤状の砂嘴がすっと南から伸びていて、さながらアルファベットの G を反転させたような形状が高台から仔細に観察できるのですが…ああ、実際に見るとこれはたまりません。地図で見てよし、実物はなおよし、いつまでも眺めていたい、うっとりするほど端正な地形です。それだけでも大興奮なのに、今から向かう資料館はなんと、この美しい砂嘴の先端にあるのです。ちょっとサービスしすぎではないかしら。

高台を下りると山口さんは、湾の南岸の牛ヶ洞（うしがほら）の空き地で車を止めました。2 度目の寄り道です。今は何もないように見えるここが「洋式帆船建造地」、つまりヘダ号がつくられた場所なのです。170 年前、西洋式の造船技術を初めて覚えた日本人は、この近所で働く船大工たちでした。そして今、目の前で案内してくださっている山口さんは、当時の木挽の直接の子孫にあたります。山口さんが戸田で大工を営まれていることは既に書きましたね。私は今、歴史の連続性の妙と、直に触れ合っているのです。

いよいよ戸田造船郷土資料博物館へ向かいましょう。砂嘴の先端にぽつんと博物館を作るのは、かなり思い切った選択です。一般に砂嘴という地形は、交通が遠回りなうえ、水、電気、通信にも微妙に難があるからです。こういうちょっとコスト高めの場所に、あえて文化施設を置くことを戸田は決めたわけです。当時は沼津市ではなく一個の独立した自治体、戸田村（へだむら）でした。小さな村の英断だと思います。

資料館の収蔵品の最大の目玉は、江戸時代からずっと戸田で守られてきたプチャーチンゆかりの品々です。それらが「洋式帆船建造地及びプチャーチン宿所 附関係遺品一括」という名称で静岡県から文化財指定されたことを機に、恒久的に展示公開するために戸田村はこの博物館を作ったのです。

建設に際しては、住民からも、民間企業からも、さらに当時のソ連政府からも寄付が集まり、1969 年、博物館は見事に開館しました。砂嘴の先端という、最高のシンボル性を有する場所に、この"おたから"を末永く守り続けるにふさわしい施設として。

博物館の入口には巨大なディアナ号の錨がどんと置かれています。これは 100 年間駿河湾に沈んでいた 2 つの錨のうちの 1 つを 1954 年に引き揚げたもの。引き上げるまで、ディ

アナ号の錨は漁師の間で「唐人の根っこ」と噂される海底の障害物で、決まって網が食われてしまう難所だったといいます。ちなみにもう 1 つの錨は 1976 年に引き揚げられ、富士市の公園に置かれています。

(上)ディアナ号の模型、(下)大きいヘダ号の模型

1970 年には、まだ展示品の少なかった博物館を当時のソ連大使が心配し、ソ連海軍設計局製作のディアナ号の模型（1/48）を寄贈しました。この模型は大阪万博でソ連館に展示されていたものです。さらにそこへ大阪の個人の方が、自ら製作した同縮尺のヘダ号模型を寄贈し、両船の大きさの違いが簡単に比較できるようになりました。

そして 2012 年にはもう 1 つ、ひときわ大きなヘダ号の模型（1/10）が東海大学博物館から貸し出され、展示室に加わりました。これは実際の船の構造を船大工の杉村宗作氏が忠実に再現したもので、内部構造も観察することができる、大変手の込んだものです。

この博物館は、設立から多くの人々の愛に支えられ続けて今に至っているのです。こんなにドラマチックでおもしろいのに、この博物館を訪れる人は多くありません。というか私と山口さんだけでした。あまりにもさびしい。でもなんとなくわかってはいたのです。戸田へ来るときに修善寺から乗った路線バスは、はじめ超満員でしたが、途中の「もみじ林」や「虹の郷」といった観光地で乗客はごっそり降りてしまい、戸田まで乗り通した客は私を入れてたったの 2 人でした。戸田に着いてからも観光客らしい人を全然見かけません。実は「松城家住宅」だって、私しか見学者がいなかったのです。大勢の観光客でにぎわう修善寺周辺と、時が止まったように閑散とした戸田、そのギャップは大きい。

でも、私がこうして山口さんを独占して戸田をめぐることができているのは、観光客が少ないおかげだと言えます。それに、戸田は漁業の町で、必ずしも観光客に頼らなくても困らない、とも聞きます。これからも戸田は、西伊豆観光のとびきりの穴場であり続けるくらいがちょうどよいのかもしれません。

さて、ヘダ号 T シャツの出番です。博物館受付の女性職員に T シャツを見せてみました。するとなんと（やはり？）、この方も T シャツのことはご存知ではありませんでした。これはいけません。戸田最強のアーカイブたる造船郷土資料博物館ですら、ヘダ号 T シャツが認知されていないならば、一体誰が知っているというのでしょう。

これはいよいよ暗雲立ち込めたと思ったら、職員の方が思い出したように「"くるら"ならあるかも」とおっしゃいました。すると山口さんも「ああ、"くるら"ね」とうなずきます。

くるら？ また風向きが変わりました。確か道の駅の名前だったような…。それでは"くるら"へ行きましょう！

山口さんの車はまっすぐには向かいません。次は砂嘴の付け根にある「戸田塩の会」に寄り道です。ここは塩を製造している作業所で、高齢の女性たちが数名、巨大なかまどに薪をくべて海水をぐらぐらと煮立たせているところでした。なんとこのまま 13 時間も炊き続けるといいます。原料の海水は戸田の沖合 1km、水深 20m のところで採水し、船に積んだタンクで持ち帰ってくるそうです。

ここに来るまで全く知らなかったのですが、戸田では古くから製塩が営まれており、約 1500 年前に安康天皇に献上したとも言い伝えられるほど歴史があるのだそうです。この「戸田塩の会」は、その伝統製法を 1995 年に復活させて、「戸田塩（へだしお）」を販売しているのです。

塩田のように太陽エネルギーを利用する製塩法が考案される以前の伝統製法なので、海水をそのまま平釜に張って、水分がなくなるまでひたすら炊きます。この方法だと、大量の薪と労力を要するのに、少しの塩しか採れません。だから、この塩はものすごく貴重なのです。

私は迷わずその場で 1 つ購入しました。100g で 480 円。安い！作っている様子を目の前で見ているのでわかりますが、この塩はどう考えても製造にかかったコストより安いのです。どうやって持続しているのか心配になるくらいです（外野か

ら勝手なことを言ってすみません）。

後で「戸田塩の会」のウェブサイトを見ると、この訪問の 2 ヶ月くらい前から商品が不足していて、オンライン販売は休止していることがわかりました（2025 年 10 月現在も再開しておらず、電話問い合わせのみ対応）。どうやら、直接購入できた私はかなり運がよかったみたいです。

そうそう、大事なことを報告しなくてはいけません。残念ながらここにも、ヘダ号 T シャツを知っている方はいませんでした。

次の寄り道はお墓です。ここはもともと私一人でも行くつもりだったところです。「露国水兵の墓」といって、プチャーチン一行が戸田に滞在中、心ならずも亡くなってしまった 2 名のロシア人が祀られているのです。

露国水兵の墓（宝泉寺）

宝泉寺というお寺に入ってすぐ右に並んだ墓石は、四角いものと丸いものが一つずつ。どちらもウメノキゴケらしき地衣類が表面を覆い隠しつつあり、ガサガサにただれたようになって判別が難しくなっています。わずか数年前に撮られた写真では、墓石はすっきりした外観をしているので、この地衣類は最近生え始めて、猛烈な速度で成長しているようです。

墓石のすぐ隣には石板が左右に設置されていて、日本語とロシア語の説明文がそれぞれ刻まれています。それによると、丸い墓石は江戸時代からのもので、ヴァシーリー・バケーエフの墓。四角い墓石はアレクセイ・ポトーチキンの墓で、もともと牛ヶ洞（さっき立ち寄った帆船建造地のところです）にあったものが水害で流されたので、1969 年にこの場所に新しく建て直し、ヴァシーリー・バケーエフと合祀した、とのことです。

おもしろいのは、日本語とロシア語で説明文の内容が微妙に異なっていることです。

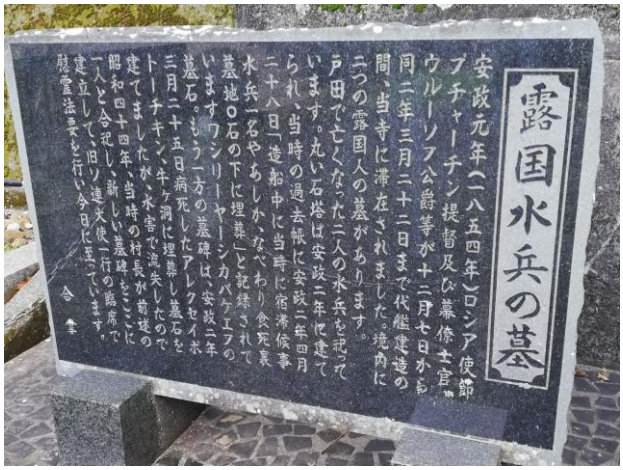
丸い墓石のヴァシーリー・バケーエフについて、日本語では彼の名を「ワシリーヤーシカバケエフ」と彫ってあり、ヤーシカという名称が入っています。宝泉寺の過去帳に彼の名が「やあしか」と記載されていた部分が文中に引用されているので、おそらくそれをそのままカタカナにして、名と姓の間に付記したのでしょう。

ロシア語の説明文では「やあしか」の部分は Васька（ヴァーシカ）となっています。ヴァーシカ！これはヴァシーリーの愛称です。ヴァシーリー・バケーエフはきっと、みんなからヴァーシカ、ヴァーシカと呼ばれていたに違いありません。

では日本人は彼をどう呼んでいたのでしょう。過去帳の文字通りに「やあしか」と発音していたかもしれませんが、もしかしたらちゃんと「ヴァーシカ」と発音していたけれど、文字で「ヴァ」を表記することができずに「や」で代用したのかもしれません。

さらにそのヴァーシカの死因についても、興味深い食い違いがあります。日本語の説明文では、過去帳を引用して「なべわり食死」と彫られています。なべわりって何？ 調べてみると、ナベワリという名前の毒草があるらしく、おそらくこれを食べて食中毒になったということのようです。

一方ロシア語の説明文では、отравления ягодами дикорастущего кустарника（野生の低木の果実による中



毒）と彫られています。どちらにせよ食中毒には違いないのですが、ナベワリは低木ではなく草本ですし、ロシア語で ягода と呼ぶようなベリー系の実もつきません。

両者のこの食い違いはどこから生じたのでしょうか。私は初め、どちらの説明文も宝泉寺の過去帳が情報源になっていて、ロシア語版を作るときに「なべわり食死」をうまく訳せ

なかったためなのではないかと考えました。しかし、後でざっと調べてみると、どうもロシア側は独自に、ヴァシーリー・バケーエフの死因を отравления ягодами дикорастущего кустарника と海軍が記録していて、現在もそれを公式のものとして扱っている節があります。

こうなってくると、ヴァシーリー・バケーエフが何を食べて命を落としたのかを、ロシア側の方が、正確に本人から聞き取っている可能性が出てきました。

複数の言語で記載された説明文はたいてい、片方がもう一方の対訳になっているものだと思っていましたが、この「露国水兵の墓」の説明文についてはどうも、日本語版とロシア語版はそれぞれ独自のソースを元に書き起こされていて、食い違いがあってもあえてそのままにしているのではないか、という気がします。日本には宝泉寺の過去帳がある。ロシアには海軍の記録がある。それぞれがそれをありのままに公開する。それが歴史の残し方というものだ、と。

一つ残念なのは、ここでは日本語とロシア語の両方を読めないと、その気概に触れることができないということです。いまやスマホをかざすだけで、かなりの外国語は翻訳できてしまうのですが、この説明文の食い違いの機微までを読み解くには、まだちょっと性能が及ばないようです。

さて、寄り道ばかりしていますが、ヘダ号 T シャツのことは少しだけ進展がありましたね。目指すは"くるら"です。「へだたれば、つなぐ」旅は、次回に続きます。

◇◆編集後記◆◇

▼本号は、たくさんの方から寄稿していただきました。「日本センターの閉鎖について」（朝妻幸雄氏）、「ロシア視点で見たハルビン旅行」（菅原信夫氏）、黒田龍之助さんの連載コラム「こんな時代にロシア語のすすめ」、今号から始まった徳山あすかさんの連載「ロシア生活」。そして、ペテルブルグ・ロシア語研修の参加者の皆さん、感想文をありがとうございます。▼神戸で「カラリョフ多久田バレエアカデミー」を開校した多久田さやかさんのインタビューと「ロシア民謡はなぜ日本人の心に響くのか」と題した安原雅之先生の講演録も、ロシア文化を理解する一つの手掛かりです。▼外務省がロシアに対する危険情報レベル 3 のただし書きを改訂し、やむを得ない事情がある場合にはロシア渡航を妨げないとしたことは、留学希望者、ビジネス関係者にとって朗報です。JIC はすでに昨年夏からロシア語短期研修旅行などに先行して取り組んでいますが、今後安全により一層配慮しつつ、ロシア留学の拡大に力を注ぐ決意です。▼ウクライナ戦争の停戦交渉の見通しはまだ立ちませんが、近い将来その日が来ることを信じて、日ロ交流の火をともし続けたいと思います。(F)

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

35 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 35 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 4,500 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学中の皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学４月生・募集中

オンライン相談 受付中！

期間：2026年4月1日より10ヶ月

締切: 2026年１月１４日

※ウラジオストク極東連邦大学の締切は 12 月 13 日

モスクワ国立大学　1,590,000 円（授業料 10 ヶ月）
ｻﾝｸﾄ･ﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立大学 1,155,000 円(授業料 10 ヶ月)
ゲルツェン教育大学　998,000 円（授業料 10 ヶ月）
ｳﾗｼﾞｵｽﾄｸ極東連邦大学　420,000 円(授業料 10 ヶ月)
ベラルーシ国立外国語大学　422,000 円(授業料 10 ケ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかかります。

ロシア以外の国でのロシア語留学の手配も可能です！（中央アジア、バルト諸国など）

◆JIC ロシア留学デスク◆
電話またはメールでご連絡ください。
東京事務所　平日 9:30-16:30　03-3355-7294
※留学相談はオンラインで行っております（要 事前予約）